

浅劣／譚劣

【読み】 せん・れつ

【意味】 〔名〕（形動）

あさはかで才智がおとっていること。浅薄で拙劣なこと。また、そのさま。

* 四河入海（17c 前）二三・一「言は、東君春神が其意浅劣にして、着_レ梅、花を開かしめて」

* 徂徠集（1753-40）二八・復安澹泊「豈譚劣如_二不佞_一者之所_二企及_一乎」

* 立会略則（1871）〈渋沢栄一〉序「故に其万一に裨補あらんかと、譚劣を顧みず、蕪陋を厭はず、刻して之を世に公問せんとして」

* 広益熟字典（1874）〈湯浅忠良〉「浅劣 センレッツ アサハカ」

* 当世書生氣質（1885-86）〈坪内逍遙〉一〇・緒言にかふるに「其脚色（しくみ）は浅劣（センレッツ）なれども」

* 呉志・陸凱伝「智慧浅劣」

【参照】『日本国語大辞典』 小学館